

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1417-1		
自己評価作成日	平成29年2月16日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年2月27日	評価確定日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんで頂きながら、田畑に囲まれた穏やかな土地で日々の生活を共にゆくりと過ごして頂きたいと考えています。またご家族様にも安心して大切なご家族が入居して頂けますように誠実にそして日々、研鑽を重ねながらケアを行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム“野の花”は26年3月に開設している。平屋作りであり、長い廊下の歩行訓練も日課になっている。敷地内の畑で野菜作りが行われ、新鮮な野菜を食べられている。28年度はケアマネなどを中心にアセスメント用紙を改良し、職員全員で「ご利用者個々のできること」「できそうなこと」の検討を続けてこられた。日々の役割も増やし、お手伝いの時はエプロンを着用し、ジャガイモの皮むきや豆の筋取り、干し柿作り等をして頂いている。「乳和食(牛乳を使った和食)」も作られ、カルシウムの補給に繋げている。職員のアイデアは豊富で、久留米のホテルでランチをされたり、和食(はねや)のバイキング等を楽しむと共に、八女市のカラオケにお連れして、日頃練習されている歌を熱唱する機会も作られた。今後も更に地域交流の機会を作り、小学生や保育園児等の子ども達との交流を増やしていきたいと考えている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく所に貼っている。(申し送りノート、玄関)	毎日の申し送り時に理念を唱和している。職員のチームワークも良く、お一人おひとりの尊厳に配慮した声かけをしている。ご利用者の役割を増やす取り組みを続けており、ご利用個々の鉢に花植えをして頂き、水やりをして頂いた。今を大切に自分らしく生活できる支援を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、運営推進会議へ参加して頂いた。	町内会に入られており、道路愛護には職員が参加している。“野の花新聞”を回覧板に入れて頂き、地域の方にホームの取り組みをご紹介している。敬老会には地域の方も参加して下さい、ボランティアの方の“ひよっとこ踊り”や“どじょうすくい”“マジック”等を披露して下さい、ご利用者も笑顔で楽しまれた。	今後も積極的に地域行事等に参加していきたいと考えており、地域行事の予定等を早々に把握していく予定である。小学生や保育園児などの子ども達との交流も増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花新聞を回覧板に入れて頂いた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答行っている。	会議は小規模多機能事業所と一緒に開催し、避難訓練も同日に行っている。ご利用者の状況や行事報告と共に、災害対策の検討も行われ、良き情報交換の場になっている。地域の方や家族が参加しやすいように日曜日に開催し、会議後はお茶をしながら家族との交流を楽しまれている。	開設以来、会議の中で「ホームの取り組み」を理解して頂く事を大切にされてきた。今後は更に「地域の課題」「地域交流」「地域に必要なもの」等の“議題”を検討し、参加者の方々との情報交換していければと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、敬老会に参加して頂いた。地域包括支援センター主催の勉強会へ参加している。	筑後市には主にケアマネが訪問しており、ケアプラン等の指導も丁寧にして下さった。市主催の勉強会にケアマネが参加したり、熊本地震の災害ボランティア要請に協力し、派遣の体制を取られた。ハザードマップの相談等も行い、ネットに公開されている事等を教えて頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所在確認を確実にしている。また声掛けを工夫して行っている。	身体拘束は行っていない。身体拘束の勉強も行い、職員の意識を高めている。ご利用者の体調の変化やリスクが発生した時は原因分析し、医師や家族と協力しながら、最適な方法を検討している。感情が不安定な時等も寄り添いを続け、想いを傾聴し、安心して頂けるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会実施。資料をファイルしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネが成年後見人制度の勉強会に参加した。	専務が入居時に家族等に制度の説明をしており、入居後も制度の必要性を検討している。制度を利用されている方もおられ、後見人との話し合いが行われている。ケアマネが市の勉強会に参加し、職員に伝達研修している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、推進会議等で、意見を出して頂き、職員会議にて、話し合いをしている。	敬老会や誕生日会の時などに家族と集う機会が作られている。面会時や毎月の手紙で暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の思いを伺うように努めている。家族から「リハビリを受けたい」と言う要望があり、近所の整形外科でリハビリを受けられるように医師との連携が行われた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換。普段から、各スタッフから意見を聞いている。	毎月の行事担当や職員がアイデアを出し合い、日々の楽しみを増やしている。季節行事を楽しまれ、ホテルのランチ等も楽しまれた。主任等との個人面談もあり、職員同士の助け合いも日常で、意見を伝えやすい環境が作られている。専務も職員の意見に快く許可をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞くことにより、子育て支援や資格取得に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入られたスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	専務や主任が職員採用の面談をしており、温かみのある方を採用している。「食事作りが得意」「飾りつけが得意」「お化粧やネイルケアができる」「毎月の勉強会を担当する」など職員個々のお力を發揮して頂いている。必要な時は専務や主任が個人面談し、相談に応じている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、話し合い、各入居者様に応じたケア方法を実地している。	理念にも『1日1日を大切に「今」を大切にする暮らしを支援します』とあり、日々振り返りが行われている。「上から目線ではなく、尊厳の気持ちを持ち、人間対人間として接すること」等を専務は職員に伝えている。接遇マナー等の研修を行い、職員も意識を高めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や講習会、研修への参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、地域包括支援センター勉強会への参加		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員さんに尋ねている。ホームで出来ること、他機関との協力が必要なことをよく説明する。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、要望等お聞きして、介護支援専門員が、ケアプランに反映している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんなサービスが必要になるかも含めて介護支援専門員が行っており、全スタッフに周知している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能に応じて、できることはして頂いている。(料理や食器洗い、洗濯物、作品づくりなど職員と一緒に)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手書きの手紙にて近況報告をしたり、面会時に話をしている。また受診など協力して頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にいつでも来ていただけるような雰囲気づくり。	ご本人との会話から馴染みの人や場所を伺い、家族からも情報を頂いている。馴染みの美容室の送迎をしたり、入院中のご主人のお見舞いにお連れする事もできた。お正月に家族と親戚周りをされた方もおられ、ご本人も喜ばれていた。友人がホームに来て下さり、居室でゆっくり過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で座っていただいたり、ゲーム等の交流出来る場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の好きなようにすごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員へ伝え対応している。	会話がお好きな方が多く、要望等を伺っている。思いを伝えられない方は職員が声かけし、家族からも生活歴等を教えて頂いている。「美味しいものが食べたい」「出かけたい」「帰りたい」「寝かせて」など、その都度の思いを把握するように努めており、ご利用者同士の助け合いも増えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族、前施設の職員に尋ね、情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあれば、職員会議や朝の申し送りに出して話し合いをしている。申し送りノートにはその都度記入して伝達している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて、全職員で検討している。何か気づきなどあれば、その都度、介護支援専門員や職員に報告している。	アセスメントは3か月毎に行い、変化は赤字で記入している。ご本人の残存機能に応じて、できることの記録も増やしてこられ、担当者が毎月モニタリングを行い、職員間で共有している。家族の要望もあり、整形外科に週3回リハビリに行かれている方もおられる。	行動障害の原因分析を続けており、「できそうなこと」や「要望」等も職員間でとことん検討している。今後もアセスメントや日課表等に「行動障害の原因」「できそうなこと」「要望」等を追加すると共に、計画の短期目標に繋げていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入。朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会等、ご本人や御家族の要望に応じて制限なく対応。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物等支援している。ご本人、御家族の要望に応じて地域資源の情報提供を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・御家族が希望する医療機関を利用していただいている。	往診を受けており、家族が受診介助をされた時も含め、受診結果を共有している。基礎疾患を持っている方もおられ、医師から栄養面等の指示を頂いている。職員の観察力も高く、異常の早期発見等に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があれば、その都度看護師へ報告し、こまめな情報共有をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が面会に伺う、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時にホームの「終末期ケアの方針」を説明すると共に、「主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアである」事の同意を頂いている。医療機関や看護師と連携し、職員間の情報共有を行い、誠心誠意のケアが行われており、28年9月に家族に見守られ、看取りケアが行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防署より救命救急の講習をしていただいている。AEDの場所、使用方法通達している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実地している。	年2回の訓練(夜間想定)は運営推進会議の時にいき、消防署も参加して下さっている。建物はオール電化で、発電機や卓上コンロ、保存食や水を準備し、井戸水も利用でき、系列施設の応援体制も整えている。浸水対策で敷地全体を地上げしており、風水害、地震等の災害計画も定めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時は、必ずドアを閉めて対応。日頃から言葉遣いには注意している。	ご利用者は人生の大先輩であり、言葉遣いに配慮し、職員同士で注意し合える環境が作られている。居室に入る時はノック等を行い、入浴時等の羞恥心も配慮している。意思決定も大切にしており、ご本人の着たい洋服等を尋ねている。記録物を目の付く場所に置かないように注意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく、ご本人の希望を聞いている。(洋服選びやオヤツに飲む飲み物をご自分で決めていただいている。)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中もご本人の体調に合わせて休憩時間を設けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧の勉強会に職員が参加した。爪を整えオシャレにネイルカラーを楽しんで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食後の食器洗いのお手伝い。調理お手伝いの時は個人のエプロン着用している。	日々の食事は彩りも綺麗で、旬の食材を採り入れている。ご利用者も畑で野菜を収穫して下さり、買物や下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等をして下さる。干し柿や盆団子、切り干し大根、梅干し作り等も一緒に楽しまれている。「家庭的」を大切に、職員も一緒に食べる方法を検討予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた量や形態で提供している。又、水分が足りない方は甘いものにしてみたりゼリーに変えて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所はしていただき、最後仕上げを職員が行う。口腔内の観察行い必要な方は歯間ブラシでのケア行っている。1日3回声掛け・付き添い行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせて、時間の調節、対応している。	トイレでの排泄を大切にしており、下着を着用する方もおられる。自立支援の視点を大切にされており、理念にある「あきらめない」ケアを続けている。ご利用者個々の排泄パターンを把握し、リハビリパンツから下着(パッド)に変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の冷水の提供。腹部マッサージ。主治医への相談により下剤の使用。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が前日に次の日の入浴者を書いてご利用者に分かるように掲示している。前日に用意が出来る方は自分で用意して頂いている。	重要事項に「毎日入浴できます」と記載されており、湯温の好みや自宅での入浴方法を伺っている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯等も楽しまれている。入浴拒否がある方は理由を把握し、声かけのタイミングに配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人希望や、その時の状況に合わせて居室やリビングソファーにて休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表を活用し把握に努めているが、完璧ではなく看護師に頼る事が多い。飲み忘れが無いように二人でチェックしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや、その方の好きなことをしていただいたり、お手伝いをさせていただくことにより役割の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は職員付き添いで散歩に行っていたり、買い物への外出やご本人の馴染みの美容室に行かれています。	外出好きな方が多く、楽しい思い出が増えている。個別に希望を聞きながら、28年度は久留米のホテルでのランチや和食(はねや)のバイキング等を楽しまれた。水田天満宮の初詣に行かれたり、四季折々の花見(桜やつつじ等)も楽しまれ、公園で遊ぶ子供達の姿に「可愛かね」と癒されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額でなければ、ご本人、ご家族の理解があれば所持して頂いている。個人の美容室代はご本人の希望があり、保管管理行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があれば、職員が御家族に電話し変わっていただいたり、面会時にお願いをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活動線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示、写真の掲示や花を飾っている。	リビングは広く、温湿度の調節も続けており、掃除は1日3回している。ご利用者同士の関係性に配慮し、座席の配慮をしている。季節の飾りを作成したり、お手玉作りもされており、小規模多機能事業所まで続く長い廊下を活用し、歩行訓練も日課となっている。ソファもあり、ご利用者同士でゆったりと団欒されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に名前シールを貼っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた物を持ってきていただき、ご本人が使いやすいように配置している。	夜間不眠の方はおられず、居室でゆっくり休まれている。タンスやテレビ等と共に、家族の写真を飾られており、居室で絵本を読まれたり、自宅から輪投げや折り紙の作品等も持参している。家族にお位牌を持って頂き、ご本人と一緒にお水をお供えする事で、穏やかに過ごされている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に応じて、お手伝いや作業をいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		